

パブリック・サービス研究分科会 2009年7月例会	
「大学図書館協力の歴史と日本の大学図書館協力の可能性」研究グループ報告書	
日時	2009年7月13日(月)12時30分～14時30分
場所	慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス本館4階小会議室
記録	植苗(中央大学)
参加者	塩瀬(女子栄養大学) 中島(桜美林大学) 山口(実践女子大学) 植苗(中央大学)

### 前回までの進捗状況

当グループでは、国内外の大学図書館(大学図書館⇔公共 or 専門図書館も含む)協力の洗い出しと分析、それをふまえた日本の大学図書館界の特徴の明確化と諸環境に適応した協力の形の提案を目標としてきた。

共有フォルダの活用によりある程度の資料・データの蓄積がなされたという認識のもと、5月例会においてはテーマの絞り込みが図られ、「共同保存書庫の可能性」について研究を進めることが合意された。6月例会はメンバーが揃わなかったため、メール及び共有フォルダのメモを通じて意見交換を図る方法で研究が進められ、7月例会までに、論文全体の構成や章立てについていくつかの案が出されるに至った。

### 例会当日の作業内容と次回までの課題

7月例会においては上記の論文構成や章立て、及び研究の進め方について議論が交わされた結果、

- ①日本の私立大学図書館で共同保存が実現していないことに注目し、諸外国や国立あるいは公共図書館の事例と比較する手法などを用いてその実現可能性と障害について検討する。
  - ②主に大学間の蔵書の重複率などから、共同保存が実現した場合のメリットを数値化することを試みる。また大学の学部構成や規模などから、理想的な提携の組み合わせを模索する。
  - ③①及び②をふまえ、図書館協力グループなりの共同保存書庫のモデルを提示する。
- という構成で進めることとなった。7月末までは共有フォルダを活用した文献収集を続け、8月下旬の合宿まではメンバーが①②に分かれて研究を進めて合宿で進捗状況を報告することとした。

以上